

障害理解心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)

選択 2単位

黒田 美保

1. 授業の概要(ねらい)

発達障害への支援を通して、障害者の心理学的な理解と社会福祉施策の理解を進める授業とする。最初に、WHOの定める障害の定義を理解し、障害から生じる様々な障壁に対する合理的配慮について学ぶ。その後、発達障害から生じやすい心理的な問題を理解し、適切な発達障害児者への支援や家族支援、福祉制度や社会的支援を考えていく。

2. 授業の到達目標

発達障害を通して、障害から生じやすい心理的な問題を理解し、それにどうアプローチするかを習得する。アプローチには心理的な支援もあるが、社会福祉的な支援もある。また、支援のためには多機関連携や多職種連携が重要である。これら理解して適切に実施できることが、福祉臨床の場面では求められている。公認心理師等の心理専門職として障害者福祉に貢献できる実践力を身に着けることを、最終目標とする。

3. 成績評価の方法および基準

学期末にレポート試験を行う。これに加え、毎回の授業に対する取り組みを考慮して総合的に評価する(割合はレポート60%、平常点40%とする)。

4. 教科書・参考文献

教科書

黒田美保 公認心理師のための発達障害入門 金子書房

参考文献

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所/世界保健機構(編)

ICF(国際生活分類)活用の試み ジアース教育新社

辻井正次(監修) 発達障害児者支援とアセスメントのガイドライン 金子書房

中島健一 福祉心理学(公認心理師の基礎と実践 第17巻) 遠見書房

5. 準備学修の内容

各授業の最後に、次回の授業内容に触れ、教科書および他の媒体を読んだり調べるように指示するので、それに従って予習をすること。また、発表担当者は、プレゼンテーション資料を作成し、内容を伝える工夫をしながら発表と討議を行う。

6. その他履修上の注意事項

授業は、担当を決めて教科書の内容を発表してもらい、それに基づき討議やグループワークを行い内容を深めていく形で進める。受講者は問題意識をもって積極的に参加して欲しい。

この科目は、公認心理師試験および臨床発達心理士試験の受験資格を得るために必要な科目である。

7. 授業内容

- 【第1回】 オリエンテーションと障害の定義について、WHOが定める障害の定義の変遷と現在の定義を学ぶ
- 【第2回】 オンライン:合理的配慮を理解し、実際のケースへの対応を考える(オンデマンド形式)
- 【第3回】 障害への支援の新しい視点:適応行動の考え方とアセスメント方法を学び身に着ける
- 【第4回】 発表「発達障害の種類と概要および発達障害に関する法律について」と討議
- 【第5回】 発表「心理支援におけるアセスメントについて」と討議
- 【第6回】 発表「発達障害に特化した検査1:自閉スペクトラム症のアセスメント」と討議
- 【第7回】 発表「発達障害に特化した検査2:ADHDとSLDのアセスメント」と討議
- 【第8回】 発表「発達障害の人をどう支援していくかを考える」と討議
- 【第9回】 発表「発達障害への支援方法(心理的支援・家族支援・社会福祉的支援)」と討議
- 【第10回】 発表「構造化による発達障害への心理的支援」と討議
- 【第11回】 発表「応用行動分析による発達障害への心理的支援」と討議
- 【第12回】 発表「発達障害の家族に対する心理的支援と社会福祉的支援」と討議
- 【第13回】 ケーススタディ「幼児期・児童期の発達障害への心理的・社会福祉的支援」と討議
- 【第14回】 ケーススタディ「青年期・成人期の発達障害への心理的・社会福祉的支援」と討議
- 【第15回】 まとめ